

令和元年度 和歌山県農林大学校農学部 学校評価シート ー評価結果ー

教育目標

高度な専門知識と技術並びに幅広い視野と豊かな人間性をもった明日の和歌山県の農業を担う人材の育成

本年度の重点目標

- 1 学生の確保
- 2 教育活動の充実・強化
- 3 進路支援の強化
- 4 情報発信の充実

評価基準

- 【評価区分・5段階】
- 5:当初目標を十分達成した(101%以上)
 - 4:当初目標をほぼ達成した(81~100%)
 - 3:当初目標を概ね達成した(61~80%)
 - 2:当初目標の半分程度達成した(41~60)
 - 1:当初目標をほとんど達成できなかった(40%以下)

本年度の重点目標	現状と課題	具体的方策・評価指標等	本年度の取り組みと評価 (※アンダーライン部は新たな試み)	内部評価	次年度以降の課題	外部評価	外部評価者コメント
1	学生の確保	<p>○平成以降入学者の定員割れが続いている。直近5年は年平均21名(受験者数24名)と特に低迷。</p> <p>定員40名 ↓ 実績:H27~31 平均 20.8名</p> <p>(出身高校の属性(H27~31)) 農業38%、総合11%、普通43%、商工業8%</p>	<p>《取組》 ○他県事例調査:4県(三重、滋賀、徳島、宮崎) 画期的な取り組みは無かった。</p> <p>《評価》 ○目標の60%の学生を確保 令和2年度入学生19名(追加試験全員合格と想定) 園芸学科:15名 AB学科:4名 (入学生の属性) 出身校:農業31% 総合16% 普通37% 商工業等16% 県内外:県内63% 県外37%</p> <p>《参考》 応募者:25名(推薦入試14名、一般入試7名、追加入試4名)</p>	2	引き続き実施	3	若年層の人口が減っていく中で、学生数を確保したいのであれば和歌山県農林大学校でないと学べないということを選んで来てもらえるような教育方針を打ち立てていくことが重要だと思う。出口戦略をはっきりした方が良い。和歌山は和歌山の色を出せるようにすることが大事。「輸出戦略」「農業簿記演習」というのは目玉講義だと思う。「作るだけじゃない」というところをアピールするためにもパンフレット等に掲載してはどうか。意識の高い県外学生の確保。若年人口が減少していく中、学生の確保が年々困難になっていくだろう。そのような状況でも農業に必要とされる人材育成機関として頑張してほしい。
	○県外からの入学者は増加。直近5年は毎年県外からの学生が入学。年平均2.2名。	<p>(県内外の属性(H27~31)) 県内89%、県外11%</p> <p>○アグリビジネス学科(H29新設)の入学者も低迷</p> <p>アグリビジネス学科 定員10名 ↓ R1年度入学生 0名 (H29:8名、H30:5名)</p>	<p>《取組》 ○高校訪問 5月、6月、9月、1月 計4巡(延べ145校(内県外11校)) ○募集要項、学校案内等の送付 4月末 県内50校、県外284校 ○会議への出席 教頭会議、進路指導部長会議、進路指導研究会等5会議へ出席(校長、副校長)</p> <p>《評価》 ○高校訪問、資料送付 予定通り実施できた。訪問時期別に説明内容を変更するなど工夫。 ○会議への出席 教頭、進路部長などへ直接説明でき効果的である</p>	4	高校への説明内容をマニュアル化	4	高等学校へのアプローチは十分に行われている。卒業後の進路の多様性をアピールする。
	○オープンキャンパス(6回予定) ・7、8月は高校3年生、3月は1、2年生をターゲット	<p>.....</p> <p>《参考》 4年制大学での農学系学部の新設状況 ・吉備国際大(H25、兵庫県) ・龍谷大(H27、滋賀県) ・立命館大(H30、滋賀県) ・摂南大(R2、大阪府)</p> <p>.....</p>	<p>《取組》 ○チラシ配布やHPなどにより事前告知を強化。 ○7、8月に合計4回開催。 ○3月に2回計画。新型コロナウイルスのため1回開催に変更。 ○参加者を中心に「入試想定問題」を配布</p> <p>《評価》 ○7、8月に参加した高校生26名の内16名が受験。 オープンキャンパス参加者を増やすことが学生確保につながる。</p>	4	実施時期、内容の検討	4	オープンキャンパスは非常に効果があるということなので今後もぜひ続けていただきたい。 入試想定問題を配るのは必要か。
	○出前授業、ガイダンス実施の働きかけ	<p>.....</p> <p>《参考》 4年制大学での農学系学部の新設状況 ・吉備国際大(H25、兵庫県) ・龍谷大(H27、滋賀県) ・立命館大(H30、滋賀県) ・摂南大(R2、大阪府)</p> <p>.....</p>	<p>《取組》 ○教育委員会と連携。学校教育課長から県内全高校へ協力依頼文書を発出。その上で高校訪問を行い働きかけた。</p> <p>《評価》 ○出前授業は要請がなかった。 ○ガイダンス実施校はここ数年激減。 本年度は県内校4校(4回)の要請に止まる(実施実績は2校)。</p>	3	過去にガイダンスを実施した高校への働きかけ ・農林大体験授業(高校生の体験受入れ)の検討	3	農芸高校としては、出前授業はぜひ仕掛けてもらいたい。 教育部局との連携は大切。
	○アグリビジネス学科入学生が少ない要因分析及び対策の実施	<p>.....</p> <p>《参考》 4年制大学での農学系学部の新設状況 ・吉備国際大(H25、兵庫県) ・龍谷大(H27、滋賀県) ・立命館大(H30、滋賀県) ・摂南大(R2、大阪府)</p> <p>.....</p>	<p>《取組》 ○高校の先生、生徒及び本校学生に聞き取り調査。 結果、学ぶ内容がイメージできない。まずは栽培技術を学びたいといった意見が大半。 そのため、アグリビジネス学科に特化したパンフを作成、学校訪問、オープンキャンパス等で積極的にPRを実施。</p> <p>《評価》 ○R2年度入学のアグリビジネス学科学生を確保。</p>	3	引き続き実施	3	チラシに興味を引くものがない。卒業後の進路が大切。奈良農大は魅力的、和歌山農大は魅力が無い。アグリビジネスは裾野が広いので何に力を入れるのか、選択と集中の中でまだ試行錯誤が続いている感じがする。その部分が高校生にはわかりづらいのかと思う。販売、6次産業化何が目標なのかわからない。学科の内容がわかりにくい。

本年度の重点目標	現状と課題	具体的方策・評価指標等	本年度の取り組みと評価 (※アンダーライン部は新たな試み)	内部評価	次年度以降の課題	外部評価	外部評価者コメント		
2	教育活動の充実強化 ○スマート農業の振興など農業を取り巻く情勢は刻々と変化。 一方、本校学生の属性も広がっている。 ・学生の属性(H27～31) ①専業農家20%、兼業農家29%、非農家51% ②出身高校【再掲】 農業38%、総合11%、普通43%、商工業8% ○学生間に基礎学力の開きがある。 ○資格取得率(H26～30実績) 園芸技術:67% 農業技術検定2級:28% 農業簿記3級:60% 狩猟免許(わな猟):68% 危険物:11% 毒劇物:12%	○時代の流れに即した授業の実践 ・新規授業科目の導入等	《取組》 ○90分授業の導入 ○実務経験豊富な講師陣を招聘 ○新規授業の実施 ・GAP(2年生、15時限) ・鳥獣被害対策(2年生、15時限) ・危険物資格試験対策(1年生、32時限) ・キャリアデザイン(1年生、38時限) ○インターンシップ研修を1年後期及び2年前期実施に変更	4	常に授業科目を検討(スクラップ&ビルド) 基礎学力として、国語、プレゼン演習を実施	4	90分授業の導入について、最初はきついと思ったが、大学ならこのくらいの授業を行うべきで、導入は正解。 外部講師を集めて学校の教育方針を説明・意見交換をする場を設けてほしいと従来から願っていたところ、本年度ようやく実現した。それぞれの道に長けた講師がそろっており、教えている内容のレベルが極めて高いことが分かった。 外部講師の質の高いところは是非、この学校の「売り」にしていきたい。幅広い分野から魅力ある講師の方々が来られているので良いと思う。講師陣の充実さをアピールする必要がある。 全学生が農業簿記を習うことは非常に良いこと。決算書を読むことができるのは現代社会において重要。 講義内容の精査が行われ、新しいカリキュラムとして反映されている。		
			《評価》 ○効率的な授業運営が可能となった ○学生の実践的な知識が広がった	3				授業内容の見直し、補習等個別指導の強化	3
		○資格取得率向上を目指した授業の新設 ・狩猟免許や危険物資格の試験対策を授業化 ・個別指導の強化 ・資格取得率 園芸技術:90% 農業技術検定2級:40% 農業簿記3級:80% 狩猟免許(わな猟):90% 危険物:50% 毒劇物:30%	《取組》 ○新規授業の実施【再掲】 ・「鳥獣被害対策」の実施 (職員に加え外部講師を招聘し授業化を実現) ・「危険物資格試験対策」の実施 (職員に加え外部講師を招聘し授業化を実現) ○時間外に補習、小テストの実施		3	資格取得率 園芸技術:76% 農業技術検定2級:19% 農業簿記3級:40% 狩猟免許(わな猟):85% 危険物:35% 毒劇物:6%	4		
		○魅力ある教育の実践 ・スマート農業関連技術の導入	《取組》 ○ICT機器をイチゴ及びトマトハウスへ導入。先進的農業技術を習得できる環境整備を進めた(近畿大学生物理工学部とも連携)。 ○東海・近畿管内の農大と情報交換を開催(職員) ○県内先進農家で現地研修を実施(学生)	4	GAP演習を授業化 G-GAP認証取得(柿) 【国庫補助事業の活用】			4	
・GAPの取組を加速化	《取組》 ○新規授業の実施【再掲】 ・新科目「GAP」の実施【再掲】 (外部講師を招聘し授業化を実現) ○GAP関連研修へ職員を派遣(3名) ○先進事例調査の実施(鳥取県農大)	4	模擬会社の設立・運営	4					
・模擬会社の設立準備	《取組》 ○先進事例調査の実施(徳島県農大、宮崎県農大) ○設立の準備	4			模擬会社の設立・運営		4		
	《評価》 ○R2年度の認証取得及び授業の強化に向け準備を整えた ○取組を進める中、職員自身の意識が変化。	4	模擬会社の設立・運営	4					
	《取組》 ○先進事例調査の実施(徳島県農大、宮崎県農大) ○設立の準備	4			模擬会社の設立・運営		4		
	《評価》 ○R2年度の設立に向け情報収集できた。	4	模擬会社の設立・運営	4					

本年度の重点目標	現状と課題	具体的方策・評価指標等	本年度の取り組みと評価 (※アンダーライン部は新たな試み)	内部評価	次年度以降の課題	外部評価	外部評価者コメント
3	進路支援の強化 ○非農家出身の学生が増え、就職に関する指導や就職先の開拓などきめ細やかな対応が必要。 ○就職試験の時期が早くなっており、1年生後半には就職活動の準備を始める必要がある。 ○積極的に就職活動を行う学生は一部である。 ○卒業時の進路確定率 (H26~30) 95%	○将来設計能力の養成 ・授業科目の改善 ・インターンシップ研修時期の改善	《取組》 ○新規授業の実施等【再掲】 ・「キャリアデザイン」の実施 (職員に加え外部講師を招聘し授業化を実現) ・インターンシップ研修を1年後期及び2年前期実施に変更【再掲】 ----- 《評価》 ○1年生の早い時期に進路を考えられるよう意識醸成できた。 ○就職希望者の学習意欲がやや低い(キャリアデザイン)。	4	就職、就農に分けたカリキュラムの検討(キャリアデザイン)	4	
		○卒業時の進路確定 100% ・外部就職支援機関との連携強化による個別指導の実施 ・個別面談による進路指導	《取組》 ○ハローワークから講師を招き、エントリーシート記述、模擬面接の実施等個別指導を充実。 ○個別面談の実施(1年生:5月、10月、2年生:4月、10月) ----- 《評価》 ○2年生卒業時には、100%の学生が進路確定。 ○就職活動を行う学生のスキルが向上した。	3	引き続き実施	4	相手のある話でもあるし、数値化できないところであるが、進路決定率が100%ということなので評価できる。
		○1年生後半に進路の方向を決定 ・就職ガイダンスの開催 対象:1年生 時期:3月	《取組》 ○就職ガイダンスの開催 ・本校1年生を対象に、紀北農芸高校との協同開催として企画。初の試み。 JA、農業法人、農業関連企業等16社が出席希望。 残念ながら、新型コロナウイルスのため中止。 ----- 《評価》 ○学生に参加企業情報を伝えたことで、企業が望む人材像をイメージすることができ、今後の就職活動の参考にできた。	3	紀北農芸高校と合同での初開催を目指す(R2)	3	
4	情報発信の充実 ○農林大学校が一般に十分認識されていない	○ホームページによる農林大学校の魅力発信	《取組》 ○ホームページを和歌山県のホームページへ移行 ○外部の意見を取り入れ、内容・構成を見直し ----- 《評価》 ○露出度の向上(ヒットしやすい)、信頼性の向上 ○閲覧者の利便性向上	4	内容の充実及びきめ細かな更新	4	「輸出戦略」「農業簿記演習」というのは目玉講義だと思う。「作るだけじゃない」というところをアピールするためにもパンフレット等に掲載してはどうか(再掲)。農林大学校独自でのイベントは厳しいと思うので農業系高校とのイベントに相乗りしたらどうか。卒業生に対しての働きかけ。
		○メディアを通じた情報発信 ・TV、ラジオ、新聞による広報	《取組》 ○プレスリリース回数 14回 ○ブログ更新 45回 ----- 《評価》 ○TV1回、ラジオ6回の露出 ○新聞掲載回数:6紙、延べ24回	4	引き続き実施	4	最近では新聞を読むよりインターネットで調べる。今後、SNSでの情報発信についても強化すべき。
		○地域における効果的な情報発信 ・関係機関(市町、JAなど)や民間企業(JR、スーパー)を通じた情報発信	《取組》 ○市町(経営支援課協力)、JA等関係機関に対して広報誌やホームページへの記事掲載及びポスター掲示を要請 ○民間企業へのポスター掲示を要請 ----- 《評価》 ○関係機関の広報誌、ホームページ及び機関紙への記事掲載 14機関	3	個別の働き掛けを強化	3	